

— 目 次 —

1. 第62回大会に参加して
三重大学 阿部恵太氏
長崎大学 林東薫氏
2. 今回の大会と今後の見通しについて
研究企画委員会 委員長・亀田 和彦
3. 理事会・総会の報告
事務局
4. J-STAGE 関係：47巻から59巻を掲載しました
編集委員会、事務局
5. 学会誌投稿に関するお願い
編集委員会
6. 事務局からのお知らせ
1) 会員情報の登録と更新のお願い
2) 会費納入のお願い
7. 大会報告要旨集の公開について

1. 第62回大会に参加して

(事務局)

今年は例年のようには大会を開催することができませんでした。シンポジウムを中止し、個別報告をWEB上で開催いたしました。個別報告をいただいたお二人に大会参加の感想をお願いいたしました。

地域漁業学会 62回大会に参加して

三重大学 阿部恵太

第62回大会はオンライン上で行われる初めての大会となった。11月7～9日の間に3つの会場において計8本の個別報告が行われた。本数は例

年よりも少なかったが、研究テーマは経営形態の変遷、水産物を用いた観光振興、日本型漁業管理、未利用水産資源の有効活用、水産教育の国家間比較等バラエティに富んだ内容の大会となった。

Covid-19の世界的流行という状況下にも関わらず、円滑に大会が開催され、私にとって初めての学会報告が予定通りにできたことを大変ありがたく思い、大会運営に携わった皆様に心より感謝申し上げたい。

今回の発表準備は、開催形式の限界を考慮し、資料作成にあたって、情報の可視化をより重視するように工夫した。これはオンライン開催ならではの工夫であり、私にとって得難い経験となった。一方で、今大会では会員間で意見交換できなかったことが悔やまれる。次に参加する際には多くの方と積極的な意見交換を行い、自分の見聞を深めたい。

地域漁業学会 62 回大会に参加して

長崎大学 林東薫

私は 2017 年から地域漁業学会に毎年参加しています。学会ではそれぞれの学校や研究所からの様々な視線での研究を聞くのが楽しかったです。しかし、今回はオンラインで学会が実施されました。個別報告準備の最初には発表に対する負担が少ないと感じましたが、研究室の先生たちと一緒に準備した内容を上手く伝えるには以前より多くの練習が必要でした。聴衆の反応や現場の雰囲気分からない今回の学会で、私にできることは一生懸命に内容を修正し、研究室の先生たちと討論して、準備した内容の録音を繰り返すことでした。まだ不安な日本語の発音やイントネーションなどでの問題はありましたが、PPT の単語一つ一つがどう受け入れるか、報告の内容を易しく正確に伝えるためにはどんな表現が必要なのかを深く悩んでみる時間になりました。今後の学会では内容の質だけではなく、相手にもっとやさしく伝わるような個別報告を準備してみたいと思います。

2. 今回の大会と今後の見通しについて

研究企画委員会

委員長（副会長） 亀田和彦

コロナ禍を受けて、今回の大会は初めてリモート形式で行われました。リモート形式で個々人の研究成果を発表するという試みは、今回の方法では、とくに聞き手にとってはじっくりと拝聴し検討してから意見や質問を発出できるという利点（座長への提出、という手順ではありますが）があったかと思います。この点では、会場に座って限られた時間の中で質問機会を探るというよりも興味深いものだったと思います。

一方で、今回は、シンポジウムや研究会といった特定の設定テーマに多数が参加して意見交換をするという形式は実現できませんでした。仕方のないことだったのかもしれませんが、一方では、何かの方法でこうした機会が得られないかと思いい今日にいたっています。

研究企画委員会では、前回以降、今後を念頭に意見交換の機会を持ちました。そのベースはイベントのありかたです。例えば、シンポジウムへの参加者数を増やすこと、シンポジウム以外にどんなことがあり得るか、大会実施日以外を含めた研究会（勉強会）開催、というものでした。これに追加された不可避の切り口が、リモート開催によってどんなイベントが実施できるのか、ということです。リモート開催については、今後、数年間の大会の一般報告の実施方法とも関係するような気がします。またリモート型のイベントについては、論題の設定はともかく、会員が自宅からでも参加できるという利点があるものの、イベントを開く側には省略できない要対策点があるのも事実です。

次回大会のイベントについては近日中に、リモート開催によるイベントの実施に関して委員会で議論し理事会に諮り、会員各位にお知らせしたいと考えています。

以上

3. 理事会・総会の報告

(事務局)

大会開催期間、理事会・総会を次のように開催いたしました。なお、今回に限って理事会の議決をもって総会議決としております。この点は、会報 111 号及びメールにてお知らせした通りです。以下は、理事会・総会の議事録です。総会・理事会時に添付した資料については、省略させていただきます。

I 第 62 回大会 (WEB 上) の実施にいたる経過報告

新型コロナウイルスの感染拡大にともなって、ご承諾をいただいていた国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校での開催を断念した。WEB 上にて個別報告会のみを開催することにした。(学会ホームページの大会案内を参照)

II. 第 61 期事業報告

1. 事務の外部委託について

2017 年 5 月 1 日より、学会誌及び会報の発送、会費請求と徴収、会員情報の管理、会計事務等については、株式会社共立に外部委託した。編集委員会業務の事務委託を 2017 年 9 月 1 日に開始し、今期これを継続した。6 2 期も引き続き委託することとした。

収入支出の日常的な管理は共立、事務局担当が請求書等をチェック、最終決済は会計担当理事が行う体制を整え、この体制で財務管理を行った。

会員情報更新等の受付はホームページ上で行っている。

2. 事務局からの報告事項

(1) 会員の動向

第 61 期の推移

当初人数	計	165 名
入会	14 名	退会 15 名
期末人数		164 名
62 期期首		164 名

入会希望者、大会希望者を報告した。
会費 4 期滞納者については退会処理をした。

(2) 広報関係

会報 NO. 108～NO. 111 号の 4 号を発行した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大会開催の件で、例年より 1 号多く発行した。

(3) HP の改定

大会案内、会報の掲載、その他必要な情報については、随時 HP に掲載した。

(4) メール未登録会員に対するお願い

引き続きメール登録を呼びかけた。

3 研究企画委員会報告

委員長：亀田

大会の開催方法、シンポジウムのテーマの設定の仕方などについて意見交換をはかった。あわせて、コロナ禍における今後のシンポジウムの持ち方について検討した。

4. 学会誌編集委員会報告

委員長：竹ノ内

6 1 期 (2019 年 10 月～2020 年 9 月) の実績は、投稿数 18 編、受理数 14 編、取下げ 1 編、審査中 3 編、印刷本数 17 編 (前年度受理済みの論文 1 編、実態調査 1 編、書評 1 編を含む) であった。

5. J-STAGE の利用開始についての報告

事務局・編集委員会

2020 年 5 月 15 日、J-STAGE への学会誌登録申請が採択された。当初の見込みより早く審査が終

了したことから、掲載時期を早めることにした。
61期は2015年～2019年の5年分に当たる55巻～59巻を公開し、最新巻の60巻1号、2号は、1年後に公開することにした。なお、掲載作業に伴う経費支出については今期予算には含めていなかったが、理事会承認の上、支出することにした。62期に47巻～54巻できるよう、準備を開始した。

委員長：鹿熊

報告事項は特に無し

6. 学会賞選考委員会報告

委員長：田和

- ・学会賞 該当なし
- ・奨励賞（中楯賞） 該当なし
- ・功労賞（柿本賞） 片岡千賀之会員

7. 国際交流委員会報告

8. 各部会報告

各部会とも報告事項は無し

- ・九州・沖縄 中国・四国 近畿
- ・東海・北陸 関東 東北・北海道

9. 第61期決算報告

本部事務局

(1) 会費納入状況について

会費の納入は順調に推移している。2021年1月頃には62期の納入とあわせて案内を送付する予定である。

61期(2019年度)一般会計決算
(期間:2019年10月～2020年9月)

事項	現在	予算	第61期	予算との差額	単位 円
前年度繰越金		6,409,306	6,409,306		
会費収入		1,500,000	1,648,000	148,000	
	60期以前		482,000	一般44名・学生7名	
	61期(当期)		1,136,000	一般:105名・一般一部(2,000円)1名 学生:9名・団体:3名	
	62期以降		30,000	一般3名	
大会参加費収入(長崎大会分)		30,000	32,000	2,000	
学会誌販売収入(購読会員他)		112,000	116,000	4,000	
投稿料		180,000	234,900	54,900	
抜刷自己負担金収入 ^{※4}		150,000	308,476	158,476	
学術著作権		45,000	45,556	556	
雑収入(長崎大会懇親会費後納分)		0	4,000	4,000	
寄付金		0	0	0	
利息		10	41	31	
当年度収入		2,017,010	2,388,973		
合計(前期繰越金を+当年度収入)		8,426,316	8,798,279		

1. 支出

事項	予算	第61期	予算との差額
本部事務費	915,500	863,729	-51,771
事務受託費	760,000	770,000	10,000
HP関連費	30,000	23,300	-6,700
事務通信費(会費請求発送費は会報に同封)	75,000	31,609	-43,391
事務用品	500	440	-60
旅費交通費(会計監査)	50,000	38,380	-11,620
学会誌作成費 ^{※1} (60巻1・2・3号)	550,000	536,140	-13,860
抜刷作成費 ^{※2} (著者負担分・60巻1・2・3号)	50,000	106,260	56,260
会報作成費 ^{※3} (No.108・109・110・111)	80,000	125,829	45,829
会誌・会報発送費	120,000	109,562	-10,438
大会準備費	100,000	0	-100,000
大会要旨集代	0	0	0
J-STAGE掲載費用(55巻～60巻)	0	676,060	676,060
委員会・部会費	0	0	0
学会賞副賞費	30,000	34,950	4,950
当年度支出	1,845,500	2,452,530	
次期繰越金	6,580,816	6,345,749	
合計(当年度支出+次期繰越金)	8,426,316	8,798,279	
単年度収支(当年度収入-当年度支出)			-63,557

郵便口座	1,354,761
UFJ(事務局)	1,551,632
UFJ(会長)	3,428,920
小口現金	73,993
前期繰越合計	6,409,306

郵便口座	1,448,321
UFJ口座(事務局)	1,383,867
UFJ口座(会長口座)	3,428,950
小口現金	84,611
次期繰越合計	6,345,749

(2) 収入

会費収入、投稿料が順調に増えて、収入金額は計画を37万円上回った。

(3) 支出

- ・事務委託費、事務経費ほぼ計画通りであった。
- ・学会誌関係
作成費はほぼ計画通りの支出であった。抜き刷り経費が計画を上回る支出となっているが、これは投稿者の負担金を学会が立替えたものであり、実質的には学会の支出ではない。
- ・会報発行
今期はコロナ禍で大会等に関する情報を会員に伝えるために、4号を発行した。例年より1号多いので、印刷経費が当初計画より増えた。
- ・大会準備費
対面での開催を中止したために、準備のための支出はなかった。
- ・J-STAGE 関係の支出
申請から審査終了まで2か月弱ときわめて早かった。長崎大会の理事会・大会では62期に掲載を開始することで理事会・総会の了承を得ていたが、利用開始を61期内に前倒しすることにした。この点については理事会にはかり、了承を得た。掲載準備のための必要経費は、当初の見積もり通り、1本5000円で、55巻から60巻までを掲載することとした。なお、以前学会誌を印刷していた朝日印刷には2号分のPDF版が保存されていなかったため、PDFの作成を依頼した。J-STAGE掲載作業の経費、670,060円を支出した。
- ・収支計画額1,845,500円に対して、2,452,530円であった。単年度収支では、63,557円の赤字であった。繰越金は6,345,749円であった。

10. 第61期会計監査報告

監事：米田・近藤

事務局を置く共立において会計監査を実施し、適正に処理されていることを確認した。

III. 学会賞選考委員会委員選挙

特別措置により、今期は実施しないこととした。次期大会にて選挙を実施する。

IV. 第62期事業計画

1. 事務委託

引き続き(株)共立に事務局活動に関する事務、編集委員会業務に関わる事務委託を行う。

2. 事務局関係

- (1) 会員拡大のためにHPの充実をはかり、情報発信を積極的に行う。
- (2) 未納会員に対して会費納入をお願いするとともに、他の会員に早期納入を進める。62期の請求は1月を予定(あわせて過年度分についての納入を請求する)
- (3) 会報発行
3回を予定。1月、6月、10月。
- (4) 次期大会候補地の選定
研究企画委員会と協力して、次期大会の候補地選定を行う。
- (5) 投稿料改定について
論文を含む「その他」の掲載料金を3万円から2万円に引き下げる。
理由：報告論文に比べて投稿が少ない。論文として投稿すると、投稿料に加えて審査過程で求められる書き加え等によるページ超過分、抜き刷り費用などがあって高額な負担になる。論文及び研究ノート等の投稿を促すためにも引き下げることにした。
なお、年間の「その他」論文数は3~4本程度であり、1万円引き下げても学会財政に影響

響はないと判断した。

3. 学会誌編集委員会

(1) 62 巻第 1・2・3 号を発行する。

大会が WEB 上になったために、掲載論文が少なくなる。そのため、過去 2 カ年の学会にて報告し、なおかつ論文投稿されていない原稿について、投稿を呼びかける。また、今回の学会で発表する 8 報について、報告論文として投稿を呼びかける。

(2) 投稿規定の改定 (一部説明済みを含む)

・ 8 の掲載料について

現行：掲載が決まった原稿については、報告論文(大会一般報告に関するもの)は掲載料(基本料金) 10,000 円、その他は掲載料(基本料金) 30,000 円を徴収する。

改定案：掲載が決まった原稿については、報告論文(大会一般報告に関するもの)は掲載料(基本料金) 10,000 円、その他は掲載料(基本料金) 20,000 円を徴収する。

・ 学会誌の J-STAGE 公開に伴う著作権の変更について

現行：学会誌掲載文の著作権は地域漁業学会に帰属する。

改定案：学会誌掲載文の著作権は地域漁業学会に帰属する。また掲載原稿はすべて J-STAGE に掲載することを了承したものとして扱う。なお学会誌と J-STAGE に掲載する原稿は同一のものとする。

(3) J-STAGE 利用の検討 (54 巻以前の号)

47 巻～54 巻の各号に掲載されている 135 編の論文を J-STAGE に公開する。作業

経費については、一般経費から切り離して別会計で扱う。繰越金額からの支払いとし、725,000 円の支払いを予定している。なお、47 巻以前の号の掲載作業については 63 期以降を予定する。

4. 研究企画委員会

(1) 大会開催地の検討

事務局とともに大会開催地を検討する。

(2) 次年度大会シンポジウムの企画

研究企画委員会を中心に検討する。

5. 国際交流委員会

報告事項は特にない

6. 各部会報告

報告事項は特にない。

7. 次年度予算計画案

(省略)

以上、理事会・総会の概要を報告いたしました。ご質問やご意見がございましたら、事務局までメールをお送りください。

アドレスは以下の通りです。

jrfs@kyouritsu-online.co.jp

4. J-STAGE 関係のお知らせ

大会終了後、47 巻から 59 巻を掲載する作業を行いました。すでに閲覧できる状態になっております。ぜひご利用ください。

5. 編集委員会からのお知らせ 編集委員会

(1) 投稿のお願い

今大会で個別報告をされた会員の皆様、投稿をお待ちしています。

現在、過去2カ年の学会にて個別報告し、まだ論文投稿されていない原稿についても、報告論文として受け付けています。投稿料は 10,000 円です。

(2) 論文等の投稿料が引き下げられました

投稿規定が改定されました。大会報告論文は現行の 10,000 円のままですが、その他は掲載料（基本料金）を 20,000 円に引き下げました。ぜひ、報告論文以外でもご投稿ください。

6. 事務局からのお知らせ

(1) 会員情報の登録と更新のお願い

学会のホームページより簡単にできます。ご利用ください。

(2) 会費納入のお願い

会費納入のお願い文書を会報とともに送っております。納入のほど、よろしく願います。

7. 大会報告要旨集の公開

下記のサイトに要旨集を公開しています。ぜひご利用ください。

<http://jrfs.org/annai.html>

地域漁業学会

<http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 株共立 内

(担当：地域漁業学会) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 新富町支店 普通 0146078